

テーマ：『 ビオトープの充実と授業への活用 』

横須賀市立 夏島小学校

Tel. 046-865-3616 担当者： 宮井 厚子



■実践内容：

4年生の総合「ビオトープ探検隊」がやってみたい活動の一つに、校庭のすみにある「かしわが池」の改修がありました。アオコが発生し荒れていた池を「生き物のすみかを増やす」という観点で改修を進めることにしました。池の深さや水生植物の移植等、専門家の方の意見も伺い、水辺公園友の会のボランティアの方にお手伝いをいただき、アサザ、カキツバタ、ヒメガマ、イグサ、タコノアシ、ミズキンバイ、ハンゲショウ、ジュズダマ、スイレン、トクサ、キチジョウソウなどの水生植物を植える作業しました。現在、池への放流をめざして、三浦めだかを育てています。

■実践成果：

すべての水生生物が育ち、花をつけたり、実をつけたりしています。アズマヒキガエルのおたまジャクシやモノサシトンボなども戻ってきました。アサザやジュズダマなど、季節によって変化している池の様子を見にくる子ども達の姿が見られます。移植作業の際、絶滅危惧種のアサザ、どんどん少なくなっているというタコノアシについて、「ここで増やしてもらって、逆にもらえるようになるといいな。」というボランティアの方の言葉に目を輝かせている子供がいました。「トクサが少し赤く、枯れているものもあった。池の中に植えたトクサはたぶんそんなに元気に育たないと思う。なぜかという『ほたるの里』のトクサは水の中ではなく、ちょっとぬれているところに生えていた。外に植えたほうが、よく育つと思う。どちらがよく育つか時々見たいと思う。」「スコップを水にぬらしながら葉っぱでこすると水の節約にもなるし、土を早く落とせるよと教えてくれた。」—これらの児童の言葉に、ビオトープは自然への理解を深めるだけでなく、手入れ等、大人たちとの様々なかかわりを通して自然との付き合い方を知り、知恵を伝えてもらう大切な場となることを実感しました。

■実践ポイント：

活動を通して生き物の多様性、命のつながりに気付かせ、自然を大切にする心を育てたいと考えました。そのためには、自然に親しむ活動の時間を十分にとることを第一と考え、実践してきました。また、自分たちで池の改修を行ったり、ビオトープの手入れをしたりすることによって、これから先の変化を見届けたい、見守っていききたいという気持ちを持たせることが、これからの地域の自然を守る担い手を育てることにつながると考えています。